

都市再生整備計画

たけおしたけおおんせんえき
武雄市武雄温泉駅周辺地区
(第5回変更)

佐賀県 たけお
武雄市

令和6年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	☐
都市再生整備計画事業	☐
まちなかウォークアブル推進事業	☒

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	佐賀県	市町村名	武雄市	地区名	武雄市武雄温泉駅周辺地区	面積	170 ha
計画期間	令和3年度～令和5年度	交付期間	令和3年度～令和5年度				

目標
大目標：武雄温泉駅周辺と周辺拠点エリアの連携を強化し、賑わいと交流のあるまちづくりを推進する。
目標1 駅前広場の機能再編を行い、来訪者・駅利用者の交流を通じて駅周辺の賑わいと魅力の創出を図る。
目標2 新駅における交通結節機能の充実及び周辺拠点エリアの各施設の連携を強化し、誰もが訪れ利用しやすく、回遊を創出する環境整備を図る。

目標設定の根拠
まちづくりの経緯及び現況 【まちづくりの経緯】 ・昭和43年度：武雄駅南部地区土地区画整理事業（24ha）都市計画決定 ・昭和50年度：武雄駅南部地区土地区画整理事業 換地処分 ・昭和55年度：富岡地区土地区画整理事業（57.1ha）都市計画決定 ・平成7年度：富岡地区土地区画整理事業 換地処分 ・平成9年度：高架事業、武雄北部地区土地区画整理事業（9ha）都市計画決定 ・平成10年度：「武雄中心市街地活性化計画」策定 ・平成13年度：高架本体工事着手 ・平成14年度：仮駅舎開業 ・平成16年度：「武雄温泉駅周辺地区都市再生整備計画」策定 ・平成17年度：1市2町 新設合併（新「武雄市」誕生） 「武雄温泉駅周辺地区都市再生整備計画」第1期計画開始（事業期間：H17～H21） →川端遊歩道、中央公園、観光交流センター等を整備 ・平成19年度：高架一次切替、新武雄温泉駅開業 新幹線事業着工認可 「武雄市総合計画」策定→九州新幹線西九州ルートの整備を見据えての本市の顔となる駅及び駅周辺の整備や、西九州の交通拠点として交流人口の拡大を図る方針を示す ・平成21年度：高架完成 都市計画道路中野御船山線整備開始 ・平成22年度：「武雄温泉駅周辺都市再生整備計画」第2期計画開始（事業期間：H22～H26）→白岩運動公園公衆トイレ（バリアフリー対応）、丸山公園園路等を整備 新幹線事業に対応するため、武雄北部土地区画整理事業工区分け後、1工区換地処分 ・平成24年度：都市計画道路永松川良線（1期）整備開始 ・平成25年度：都市計画道路天神崎白岩線（駅前広場含む）整備開始 武雄市図書館リニューアルオープン ・平成29年度：武雄市こども図書館オープン ・平成30年度：都市計画道路永松川良線（1期）整備完了 ・令和1年度：武雄北部土地区画整理事業 2工区換地処分 【現況】 ・令和4年度の九州新幹線西九州ルート暫定開業に向けて、新幹線を活用したまちづくりを進めるために官民一体となり検討を進めている。 ・令和6年度の国民スポーツ大会に向けて、スポーツに対する機運が高まっている。新幹線や在来線を利用した来訪者が多数見込まれるため、大会のみではなく市内を回遊してもらう環境整備が急務となっている。
課題 ・当市は西九州のハブ都市としての立地条件を有しているが、現在の駅前広場は広場面積の大部分が交通広場となっているため、九州新幹線西九州ルートの暫定開業に向けて、周辺住民の利便性向上はもちろん、観光拠点としての抜本的な駅前広場の機能再編が必要である。 ・武雄温泉駅と周辺拠点エリアとの連携を図り、さらに拠点を結ぶ主要導線の快適性・回遊性を向上させることで、賑わいの創出につなげる必要がある。 ・市の玄関口として武雄温泉駅駅舎に観光交流センターを整備しているが、九州新幹線西九州ルートの開業に向けて、市外、さらにインバウンドの来訪者を迎えるため、観光や物産品等の迅速かつ効果的な情報発信が必要である。
将来ビジョン（中長期） 【武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和2年度～）】 ”武雄の未来を拓く「西九州のハブ都市」の実現”に向けて、以下の基本的方向を定めている。 ①九州新幹線西九州ルートの暫定開業を契機に、佐賀と長崎をつなぐ拠点都市として、新たな人の流れと交流の創出を図る。 ②観光、文化、スポーツ等の分野について、連携した取り組みを推進するとともに、一つの自治体の枠にとらわれず、地域間や経済圏など広域での連携・協働を推進する。 ③住んでいる人が武雄の魅力を知り、誇りをもつこと、そして、地域と継続的に多様な形で関わる地域のファンやリピーター等「関係人口」の創出・拡大を図ることが必要である。 ④国や地域、個人で異なる嗜好を踏まえ、日常の中にある資源や武雄の強みを効果的に「情報発信」することにより、認知度を向上させる取り組みを推進する。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
武雄温泉駅の乗車人員	人／日	JR武雄温泉駅の1日当たり乗車人員	駅周辺と各拠点施設の連携による賑わい創出効果を表す指標	1,700	R1	1,850	R5
観光交流センターの利用者数	人／年	観光交流センターの年間利用者数	駅周辺と各拠点施設の連携による賑わい創出効果を表す指標	20,856	R1	23,000	R5
武雄温泉駅周辺地区でのイベント数	回／年	武雄温泉駅周辺地区でのイベント開催数	駅周辺エリアの賑わいに寄与する駅前広場・高架下の新設効果を表す指標	54	R1	61	R5

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
整備方針1 駅前広場の機能再編 武雄温泉駅の南口(御船山口)駅前広場は、平成19年度の高架1次開業時に整備されたものの、基盤整備は昭和40年代の土地区画整理事業によって行われたものである。現状は、広場面積の大部分が交通広場となっているため、交通広場機能を再編し、憩い・交流の空間を創造する生活・観光の拠点となる駅前空間としての機能再編を行う。 今回の機能再編により、交通結節点である武雄温泉駅を中心として、南は図書館、体育施設等、北は武雄温泉楼門(国史跡)を中心とした温泉街を有機的につなぐ南北軸の形成を図り、駅から各拠点方面への人の流れを生み出す。 ・武雄温泉駅の駅前広場(南口・北口)を、人が集い・佇み・交流できる、まちの玄関口としての駅前広場へと再編する。 ・武雄温泉駅の駅前広場(南口・北口)を、公共空間の多目的利用(通行×滞在)として人が集い・佇み・交流できる「まちのリビング」のような賑わい創出空間としての駅前広場へと再編する。 ・駅前広場内の交通広場について、動線に配慮した計画的な整備を行うことにより、バス・タクシー・一般車がスムーズに利用できる空間へと再編する。 ・駅前広場内の自転車駐車場を再整備し、広場内の歩道へ雨よけ庇や舗装整備を行うなど総合的にバリアフリー化を推進し、利用者にとって安全で快適な交通環境の創出を図る。	【基幹事業】 地域生活基盤施設 武雄温泉駅北口(楼門口)広場整備事業:市 武雄温泉駅周辺駐輪場整備事業:市 高質空間形成施設 武雄温泉駅南口(御船山口)広場修景施設整備事業:市 武雄温泉駅南口(御船山口)広場電線地中化事業:市 【提案事業】 地域創造支援事業 武雄温泉駅南口(御船山口)の利便性向上整備事業:市
整備方針2 駅及び周辺拠点エリアの各施設の連携強化 武雄温泉駅周辺には平成25年度にリニューアルオープンした市立図書館や白岩運動公園、武雄温泉楼門(国重要文化財)を中心とした温泉街など拠点となる公共施設や観光施設がある。特に令和4年度の九州新幹線西九州ルート暫定開業、令和6年度の国民スポーツ大会に向けて、駅とこれらの拠点の回遊性の向上はさらに重要度を増している。 ついては、快適な歩行空間の整備及び積極的な観光等の情報発信により、周辺拠点エリアの各施設の連携強化を行う。 ・武雄温泉駅周辺及び各施設間を徒歩で安全・快適に移動できる遊歩道の整備を進める。 ・来訪者や市民の交流空間となる観光交流センターを再整備し、文化・観光情報の発信地として位置づけることで、周辺拠点エリアの回遊性の向上を図る。	【基幹事業】 地域生活基盤施設 武雄温泉駅周辺情報板整備事業:市 高質空間形成施設 市役所北側側道歩行者等通行空間整備事業:市 【関連事業】 観光案内施設整備事業:市
その他 ○新幹線のまちづくりに向けた官民組織 武雄市新幹線活用プロジェクトが策定した「九州新幹線武雄温泉駅開業に向けた魅力創造行動計画(H31)」との連携 駅前広場整備・高架上等の有効活用・広報戦略等 ⇒ハブ都市に向けた魅力・快適性向上のための整備 ○武雄温泉駅周辺の公共空間を利用した実証実験 R1 歩道沿いの店舗前民地を利用した「まち歩きマルシェ」 R2 公園や広場の利活用にむけた夜市、鉄道高架上でのストリートパーク構想 ⇒駅から観光スポットへの回遊性向上のための整備 ○「武雄温泉駅周辺官民連携まちなか再生推進事業(R3)」との連携 ⇒武雄まちなか将来ビジョンの提案	

様式(1)-④-2

(金額の単位は百万円)

...B

合計(A+B)	386
---------	-----

様式(1)-④-3

(金額の単位は百万円)

...A

..B

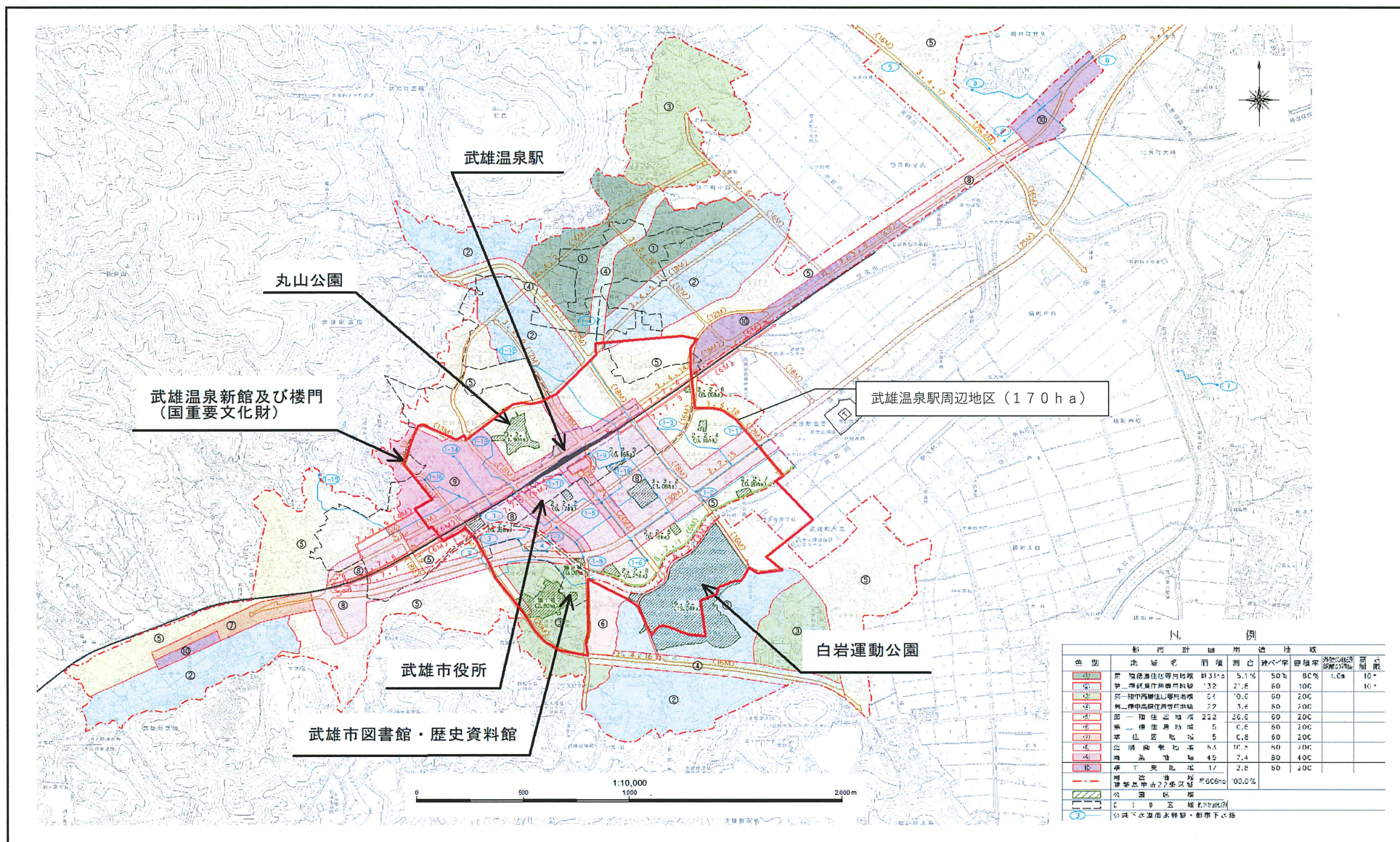
0

3,54

武雄市武雄温泉駅周辺地区(佐賀県武雄市)

面積 170 ha

区域

たけおちょう とみおか たけおちょう しょうわ
武雄町大字富岡の一部、武雄町大字昭和の一部

武雄市武雄温泉駅周辺地区(佐賀県武雄市)整備方針概要図(まちなかウォーカブル推進事業)

目標	●大目標：武雄温泉駅周辺と周辺拠点エリアの連携を強化し、賑わいと交流のあるまちづくりを推進する。 ○目標1：駅前広場の機能再編を行い、来訪者・駅利用者の交流を通じて駅周辺の賑わいと魅力の創出を図る。 ○目標2：新駅における交通結節機能の充実及び周辺拠点エリアの各施設の連携を強化し、誰もが訪れ利用しやすく、回遊を創出する環境整備を図る。	代表的な指標	JR武雄温泉駅の乗車人員（人／日）	1,700	（ R1年度 ） →	1,850	（ R5年度 ）
			観光交流センターの利用者数（人／年）	20,856	（ R1年度 ） →	23,000	（ R5年度 ）
			武雄温泉駅周辺地区でのイベント数（回／年）	54	（ R1年度 ） →	61	（ R5年度 ）

